

## 医療スポーツ系学生のコミュニケーション能力向上のための 教材開発と実証

### Development of e-Learning Materials and Proof for Communication Skills Improvement of The Medical and Sports Student

林 康弘, 小野寺 妙子

Yasuhiro HAYASHI, Taeko ONODERA

帝京平成大学地域医療学部

Faculty of Community Health Care, Teikyo Heisei University

Email: {yasuhiro.hayashi, t.onodera}@thu.ac.jp

**あらまし**：看護，コ・メディカル，スポーツ分野を目指す医療スポーツ系の学部生にとって患者及びその家族，コーチとプレイヤー，プレイヤー同士の対話におけるコミュニケーションのためにその能力向上が重要となっている。本研究では，本学で開講しているビジネスとコミュニケーションに関する科目群において，今年度より予習・復習での利用を想定したeラーニング教材と演習問題を開発し，これらを用いた授業展開と科目間連携を図っている。今回，本取り組みの詳細と学生のコミュニケーションに対する意識調査の結果について述べ，医療・スポーツ分野の学生に対する授業展開の方法，アクティブ・ラーニングの可能性について述べる。

**キーワード**：教材開発，教材共有，科目間連携，医療スポーツ，コミュニケーション

#### 1. はじめに

看護，コ・メディカル，スポーツ分野に従事する人材は，患者及びその家族，コーチとプレイヤー，プレイヤー同士のコミュニケーションにおいて，正確な情報伝達，適切な受け答えを求められるため，その能力向上が重要となっている[2, 3]。一方，本学では，ビジネスとコミュニケーションに関わる科目が複数開講されているが，看護，コ・メディカル，スポーツ分野に特化した内容となっておらず，また，科目間で重複している学習内容も見受けられる。

本研究では，医療スポーツ分野における学生のコミュニケーション能力向上を目的として，問題点として挙げた開講中のビジネスとコミュニケーションに関する科目群において，今年度より予習・復習での利用を想定したeラーニング教材（教科書，演習問題）を開発し，これらを用いた授業展開と科目間連携を図っている。対象とする科目群は，「ビジネス・コミュニケーション」，「オフィス・コミュニケーション」，「企業と倫理」（いずれも学部生1～4年生向け選択科目）である。特に，開発している教科書は予習，演習問題は復習のために利用されることを想定している。このため，教科書は学生が短時間で読み進められるように要点をまとめた短い文章と画像，アニメーションから構成される。演習問題は，専門用語の確認，シーンに合わせたコミュニケーションの選択，などである。学生への予習・復習の配信には，本学で使用している学習管理システム（manaba course2）を使用した。今回，本取り組みの詳細と学生のコミュニケーションに対する意識調査の結果について述べ，さらに秋学期以降に想定している医療・スポーツ分野の学生に対する授業展開，アクティブ・ラーニングの可能性について述べる。

#### 2. 医療スポーツ系学生向けコミュニケーション能力向上のための教材開発

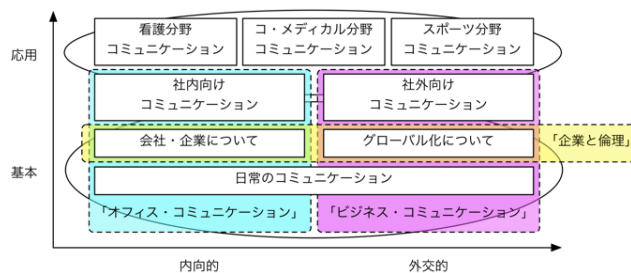


図1 コミュニケーション能力と対象科目群の関係

我々が目指している医療スポーツ系学生を対象としたコミュニケーション能力と対象科目群の関係を図1に示す。それぞれの科目の主な学習内容としては，「オフィス・コミュニケーション」では，社内向けのコミュニケーションを取り扱う。例えば，礼儀作法，敬語，上司部下の関係などである。「ビジネス・コミュニケーション」では，仕事の円滑な進め方，社外向けコミュニケーションを取り扱う。例えば，自己・他者分析，ビジネス上の目的を達するために必要とされる戦略的な会話術などである。「企業と倫理」では，企業とは何か，企業の持続可能性，企業に求められる社会的責任，不祥事の歴史，社会人としての心得を取り扱う。

いずれの科目も履修学生の理解度に合わせて，日常のコミュニケーションや企業，グローバル化といった基本的な会話術，世界観を取り扱っているため，重複した学習内容が存在する。また，授業全体の前半部分に基本的な会話術や世界観の説明に時間を費やさなければならないため，応用に位置付けられる看護，コ・メディカル，スポーツ分野に特化したコ

コミュニケーションの内容にまで到達することが難しい。さらに、就職を意識している高学年とそうでない低学年の学生との間でコミュニケーションに対する重要性・必要性に差があり、授業に参加する学生の学習意欲にばらつきがある。このため、我々は次の手順で段階的に教材（教科書と演習問題）を開発し、科目間連携を図っている。

（教材 A）科目間で重複するコミュニケーションの基本、会社・企業について、グローバル化について（教材 B）専門に関わらず、社会人として必要となる社内・社外向けコミュニケーションについて

（教材 C）看護、コ・メディカル、スポーツ分野それぞれで必要となる専門用語や慣例等を含むコミュニケーションについて

教材開発では、各科目の担当教員が、メモ帳、PowerPoint、Excel を利用して原稿を作成し、その原稿をもとにして相談しながら教材を作成している。その後、本学で使用している学習管理システム（manaba course2）上に教材データを登録している。学生はコース課題として表示される教科書を学習でき、選択または記入形式の演習問題に解答でき、教員は学生の学習履歴を学習管理システムにて確認できる。図 2 に開発した演習問題の一例を示す。



図 2 開発した演習問題の一例

### 3. コミュニケーションに対する意識調査

教材開発を行う上で、履修学生がコミュニケーションに対してどのように考えているのか、参考にするための無記名式のアンケート調査を行った。実施科目は「オフィス・コミュニケーション」、回答者数は看護・スポーツ分野の学生 137 名（男 46 名、女 91 名）であった。

（Q1）あなたにとってのコミュニケーションスキルの重要性を教えてください

Q1 の回答結果は「とても重要だと思う：109 名（80%）、重要だと思う：28 名（20%）、あまり重要だと思わない：0（0%）、重要だと思わない：0（0%）」となった。男女による違いは見られなかった。

（Q2）あなたがコミュニケーションの中で重視しているのはなんですか？

Q2 の回答結果は「プレゼンテーション：9 名（7%）、自己分析：11 名（8%）、他者に対する理解：95 名（65%）、一般常識：22 名（16%）」となった。男女による違い

は見られなかった。

（Q3）この授業はあなたのコミュニケーションスキルを養う上で役立っていますか？

Q3 の回答結果は「とても役に立っている：37 名（27%）、役に立っている：82 名（60%）、あまり役に立っていない：14 名（10%）、役に立っていない：3 名（2%）」となった。男女による違いは見られなかった。

Q1～Q3 の結果から履修学生はコミュニケーションスキルを重要と考えており、他者の理解や一般常識を求めていると考えられる。一方で、コミュニケーションの授業では、他者とのコミュニケーションを確立するためには、自己分析と自己理解が重要とされ、一週目からこれらの学習を行うのが一般的である。学生の要求と学習内容のミスマッチが読み取れる。教材開発において、このミスマッチを埋めるための工夫が必要と考えられる。

### 4. アクティブ・ラーニング実施への可能性

本研究では、開発している e ラーニング教材を用いて学生に予習を割り当てる反転授業と、授業でのコミュニケーション向上のためのアクティブ・ラーニングの実施を目指している。

アクティブ・ラーニングとしてペアワークやグループワークを想定しているが、効果的な課題の開発は未着手である。例えば、コミュニケーション能力の向上を目的とするツールの一つとして「カタルタ」がある[4]。カタルタでは会話のきっかけを作る一言がカードに記載されており、そのカードを使って会話を行う。今後、このようなツールを利用するか否かの検討と実践を行いながら、学生のコミュニケーション能力を高めるアクティブ・ラーニングの開発を行う必要がある。

### 5. まとめ

本稿では、看護、コ・メディカル、スポーツ分野を目指す医療スポーツ系の学部生を対象とした e ラーニング教材と演習問題の開発の取り組みと学生のコミュニケーションに対する意識調査の結果について述べた。また、今後、授業への導入を目指すアクティブ・ラーニング及び反転授業について思案を述べた。

#### 参考文献

- [1] 林 康弘, 深町 賢一, 小松川 浩: “e ラーニング利用による反転授業を取り入れたプログラミング教育の実践,” 社団法人私立大学情報教育協会, ICT 利用による教育改善研究報告第 16 巻, pp.19-23, 2013 年 11 月.
- [2] 上野 栄一: “看護師における患者とのコミュニケーションスキル測定尺度の開発,” 日本看護科学会誌 25 巻 2 号, pp. 47-55, 2005 年 6 月.
- [3] 杉山 佳生: “スポーツ実践授業におけるコミュニケーションスキル向上の可能性,” 大学体育学, 5 : 3-11.
- [4] カタルタ: <http://www.kataruta.com/> (2016.6.1)